

# 神埼の味を堪能 元気かんだき市民交流祭 開催

11月17日、第6回元気かんだき市民交流祭が、JAさが神埼地区中央支所と神埼町保健センターの駐車場を会場に開催され、たくさん市民がイベントや地元を堪能しました。

市民交流祭のキャッチフレーズは「神埼秋の収穫祭」。会場には、地元で採れた食材を使った「鍋・釜料理」をはじめ、特産の菱の皮を利用した新商品「ひしぼろ」と菱焼酎、神埼産佐賀牛の販売など特色あるブースが並びました。

午前中、あいにくの雨空で肌寒い天気でしたが、温かい鍋物は大人気。ぜんざい、豚汁、カレースープ、だ汁などメニューも豊富で、一人で5、6杯食べたという人もいました。また、神埼産佐賀牛のコーナーは販売前から長い列ができるほどでした。

ステージではカラオケチャンピオン決定戦、自衛隊音楽部の演奏、子どもたちに人気の「特命戦隊ゴーバスターズ」ショーなどが繰り広げられました。

また、子供向けイベントとして、ミニSL「汽車ぼっほ」、ふわふわエア遊具のほか、「はたらく車両展示」も行われ、消防車、パトカー、自衛隊の牽引トラックなどに乗ることができた子どもたちは満足げな表情でした。

昼過ぎには青空ものぞき、クライマックスは「よかね神埼市民総踊り」。会場いっぱい大きな踊りの輪が出来ました。



カラオケチャンピオン決定戦入賞者の表彰



陸上自衛隊目達原駐屯地音楽部の演奏



おなじみ山本譲一さんも熱唱



弁当や焼き鳥など食べ物のブースも並び



ミニSLの乗車も子どもたちに人気



古いカメラやテレビ、映写機などの展示も



会場で緑の募金を呼びかける緑の少年団員



はたらく車両展示コーナーで消防車に乗って「ピース」



ふわふわエア遊具にも順番待ちの列



クライマックスは「よかね神埼市民総踊り」



休憩テントで神埼の味を堪能する人たち



神埼産佐賀牛の販売コーナーには長い列



ゴーバスターズはちびっ子たちのヒーロー



地元食材を使った鍋・釜料理のブース



東日本大震災復興支援を兼ねたバザーも好評

# 歴史散歩

④

市役所が「神埼まちあるき」として毎月実施している歴史や自然の現地体験学習会に同行取材し「神埼の歴史散歩」と題して連載しています。



## 蒙古屋敷と大蛇伝説の巻

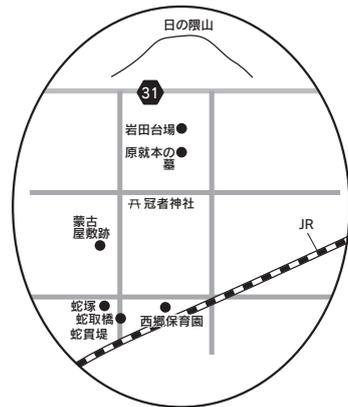
江戸時代、肥前七隈と呼ばれる景勝地だった西郷富士・日の隈山の南に広がる神埼町尾崎地区には、旧石器時代から幕末・近代に至るまで、多くの遺跡や伝説、民俗芸能が残っていて、この地がいかに重要な場所だったかを物語っています。

### 佐賀藩の砲術鍛えた岩田台場



▲岩田台場の内部

日の隈公園から南へのびる桜並木を横切るように、古代官道「西海道」が通っています。奈良時代、大宰府と肥前を結んだこの道を西へ進むと、岩田台場が見えてきます。ここは江戸時代、佐賀藩・蓮池藩の砲術演習場でした。周辺には鉄砲座が置かれたと伝わる場所もあり、演



習は日の隈山を的場として行われていたようです。

岩田台場は五角形をしていて、内部は竹林になっていました。ここに大砲をすえた台座があるかは、未調査のため不明です。岩田台場屋敷には、火薬庫や役宅などが置かれ、南には砲術の指導にあたった原家の墓があります。幕末、戊辰戦争で大きな役割を果たした佐賀藩の砲術は、確かにこの地で培われたのです。

### 大蛇伝説にちなんだ地名も

稲穂の揺れる田んぼの脇を南へ下ると、尾崎西分地区の北端に冠者神社が祀られています。尾崎の西分と東分には二年に一

度行われる櫛田宮の大祭の太神楽が伝承されていますが、この太神楽も蛇をかたどったと言われています。

この地にはその昔、大きな蛇がいて人々を困らせていたという伝説が残りに、地名と深い関わりがあります。例えば、中池江川にかかる「蛇取橋」、地元の

人から「ひものきでー」と呼ばれている「蛇貫堤（へびぬきでい）」、蛇退治の作戦会議の場所「野寄」、蛇のしっぽが出た「尾崎」などです。

見学中、優に1メートルはあろうかという蛇の脱け殻を見つめました。さすがは大蛇伝説の地。この場所の守り神かもしれ



▲蒙古屋敷伝承地の樟大明神

作者、家永彦三郎の弟が尾崎に移り住み焼き物を始めたとする説などがあり、定かではありません。もし、蒙古人が伝えたとなると、佐賀県内でも非常

ません。

尾崎西分の南西部には、元寇の折に捕虜となった蒙古人が住んだとされる、「蒙古屋敷」と呼ばれる場所があります。もともと、尾崎地区は皇室領荘園神崎荘内に位置し、蒙古合戦の恩賞地として1297年に河野通有（こうのみちあり）に給付されています。河野通有は、有名な蒙古襲来絵詞にも登場する武将です。伝承としての蒙古屋敷は、この河野氏の屋敷ではないかと考えられます。

### 尾崎焼はどこから？

蒙古屋敷の周辺には、様々な時代の土器の破片が非常に多く混じっています。地元では、蒙古屋敷に住んでいた蒙古人から焼き物や鳩人形などの人形づくりを教えてもらったと伝わっているそうです。

尾崎焼の起源は他にも、豊臣秀吉の接待に使われた土器の製作者、家永彦三郎の弟が尾崎に移り住み焼き物を始めたとする説などがあり、定かではありません。



に古い歴史のある焼き物となりますが、残念ながら今では尾崎焼の窯元は1軒も残っていません。尾崎人形はただ1人、高柳政廣さんが作られています。

尾崎西分地区では、断絶した尾崎焼の復興と尾崎人形の普及を目指し、研究会を発足。近年では、日の隈窯の勝田文博さんが尾崎焼の復元に取り組まれています。おそらく、尾崎焼の焼き物が残る家も多いのではないのでしょうか。鍋島藩から幕府への献上品にもなった故郷の焼き物を今一度見つめ直したいものです。

### ◎問い合わせ先

神埼市役所 政策推進室  
☎ 371-0121

※詳しくは神埼市デジタルミュージアム「かんざき@N A V I」をご覧ください。

◎尾崎焼研究会

尾崎焼の歴史は、定かではありませんが、『葉隠』には「豊臣秀吉が名護屋に向かう途中、大和町の尼寺付近で、住民より土器に並べた握飯の接待を受けました。秀吉はその握り飯と土器を褒め、土器の作者であった家永彦三郎を名護屋に呼び御朱印を授けました。その後、彦三郎は柳川に移り窯を開き、その弟である長右衛門が佐賀の高木瀬で、その子孫が神崎の尾崎に移り焼物づくりを行った」と伝えています。(その他にも説があります)

この説を確認するため第5回尾崎焼研究会は、尾崎焼との関係がある柳川市の蒲池窯の視察研修を計画されています。



尾崎西分公民館に保管されている尾崎焼

◎神崎荘と平氏勉強会

前回までに、神崎荘の「津」や当時の海岸線などの検討と現地聞き取り調査などを行いました。勉強会では、3月までにこの成果をパンフレットとしてまとめる作業を進めていくことになりました。

勉強会では、今後、活動組織づくりを進め、神崎のことを学び、その成果を市民の方や市外から神崎へ訪れられる方への語り部を担う取組を目的に活動をしていくこととなりました。

市民の皆さまの多くのご参加をお願いします。



蒲田津に残る「荒籠」

第7回現地体験学習会(神崎まちあるき)のご案内  
「勢福寺城跡見学会」を開催

- 日 時 12月9日(日)  
※雨天時：12月22日(土)に延期
- 受 付 午前9時 受付開始
- 見 学 9時30分 出発  
15時00分 終了(予定)
- 集合場所 城原地区公民館 駐車場
- 注意事項
  - ・全コース、徒歩による見学です。
  - ・長時間歩くことのできる靴・服装でご参加ください。
  - ・昼食、飲物、帽子、雨具などをご準備ください。
- 参加申込  
12月5日までに、神崎市役所政策推進室までお申し込みください。

『神崎和菱焼酎』  
年末年始限定販売

- 数 量 200本(平成23年度醸造分)
- 時 期 12月1日から  
平成25年1月31日まで  
(土日祝日、12/30～1/5を除く)
- 価 格 1本 2,500円(税込)  
(原酒41度、370ml)
- ◎販売・問い合わせ先  
田中酒造合資会社  
(佐賀市蓮池町大字小松338)  
☎97-1111 FAX97-1162

※古文書講座についての申込・問い合わせは、下記連絡先までお願いします。



生きた歴史が綴られている古文書を解読できる人材を育てるために、11月から3月までの期間で古文書講座基礎編を開催しています。第1回は、佐賀県立博物館学芸員の浦川和也先生により、名護屋城に係る「秀吉」から「おね」に宛てた手紙をテキストに、「古文書からどんなことが分かるのか、古文書が読めるようになる」と楽しみの講義を受けました。

神崎塾講座の専門講座  
古文書講座が  
始まりました